2025年度　外国人留学生選抜　「専門試験」出題の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験	面接	
	狙い・意図	狙い・意図	専門試験作品利用
日本画			
油画	モチーフとして譜面台が中央に置かれた空間で、受験生に数分間の音楽を聴いてもらい、その響きの印象もふくめ自由に絵を描いてもらった。選ばれ曲は２０世紀初頭に書かれた現代音楽であり、抽象絵画の誕生のきっかけとなった音楽の流れを汲むものであった。目に見えない音楽を画家としてどのように描くかといったテーマは、美術史の中で多くの画家たちが繰り返し探究してきたものである。モチーフの譜面台を描いても、聴いたその音楽の印象から色合いや筆致は変わるだろうし、もちろん抽象絵画へと展開するかもしれない。そうした感応する力を通して見えてくる、総合的な作者の表現力をみることが出題の意図であり、言語の壁を軽やかに越える音楽をテーマにすることも留学生入試の出題の一つの意図でもあった。	実技作品の制作意図や今後の制作の方向性、将来の展望などを質問し、日本語によるコミュニケーションの力も判断材料とした。	●
版画	《選択A：デッサン『静物』》 本課題では、各モチーフの特長を活かした画面構成と、その質感の違いを適切に表現できているかを問うことを主眼としています。そのため、基礎的なデッサン力（描写力・観察力・構成力）を中心に、作者の意図や興味、テーマへの取り組みも含めて、総合的に評価しています。 ・理解力＝出題内容をしっかりと理解しているか ・観察力＝モチーフの造型性を理解し、正しく捉えているか ・描写力＝形、色、立体、空間、質感、細部などを描写する力があるか ・構成力＝モチーフを適切に配置し、バランス良く構成しているか ・テーマカ＝作者がモチーフの何に興味をもち、どのようなテーマをもって取り組んだか 《選択B：コラージュ『写真』》 コラージュは色彩表現とは異なり、単なる構成的な造形表現ではありません。複数の映像を組み合わせ、編集することの面白さをどのように引き出すかが肝心です。今回の出題においては、同じ雑誌2冊を素材とすることで、2つの同一イメージの関係をどのように構築できているかを評価のポイントとしています。 ・映像感覚＝写真イメージに対してどのようにアプローチしているか ・編集力＝写真を選択し、組み合わせ、編集する力があるか ・構想力＝作品のテーマ、コンセプトを構想する力があるか ・独創性＝独自の視点、感覚をもっているか ・完成度＝コラージュとしての完成度があるか	外国人留学生面接試験では、提出作品とポートフォリオを前に、専任教員との質疑応答の中で以下の点をポイントとし評価を行います。 ・日本語能力＝質問を十分に理解し、的確に返答できるか ・完成度＝作品とともにポートフォリオ自体に完成度があるか ・意欲・積極性＝志望動機は明確であるか、学業や制作に意欲があるか ・プレゼン力＝持参した作品を基に自身の考えを明確に述べられるか、説得力をもっているか ・計画力＝入学後の研究に展望をもち、その実現に何が必要であるか把握しているか	●
彫刻	デッサン、立体など技術的修練が必要とされるものと、その場での発想力、両方をバランスよく見る意図で出題している。新聞を選んでいるのは、選択肢になるべく広い幅を持たせるため。 社会問題に強く関心を持つ者、ひとつのワードから自由に想像力を膨らませる者、ストーリーを構築する者、複数の観点から総合的に評価をする。 学生が「現在持っている力」も見るが、入学後に「どれだけ伸びるか？」＝自己の関心をいかに広く社会と接続していけるか？が一番の評価基準になる。	・デッサン（実技試験）作品コンセプトの聞き取り ・基本的な言語/コミュニケーション能力 ・美術以外に関心のあること ・ポートフォリオの内容について個別質問	●
工芸			
グラフィックデザイン	・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・伝達力 問題の意図や状況を正確に表現しているか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、動き、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか	・日本語で日常会話が行えるか ・専門分野の用語が理解できるか ・入学志望理由が明確であるか ・自分の意見が述べられるか	●
プロダクトデザイン			
テキスタイルデザイン	鉛筆デッサンでは、観察力（対象を的確にとらえているか）と基礎的描写力、理解力（出題の意図を把握し理解しているか）を問うことをねらいとし出題しました。モチーフとして配布した「糸枠」は日本の伝統染織道具のひとつです。「クマザサ」も日本特有の植物です。外国人留学生には馴染みのないものですが、日本文化への興味を刺激するものをモチーフとして出題しました。色彩構成では、表現力（独自の色彩感覚で形態との調和がとれた表現ができているか）、伝達力（制作のテーマが伝わるように表現されているか）に加え、完成度（表現材料の扱いが丁寧で、仕上がりが優れているか）を評価することをねらいとして出題しました。	受験者が授業についていくことのできる充分な日本語能力と、持参作品の造形力を評価しました。 テキスタイルデザインを学ぶ熱意や志望動機、社会でのテキスタイルの役割についてどのように考えているかを明確に説明できるかを評価の対象とし採点のポイントとしました。面接時に専門試験の解答に対し自己評価を促し、客観性や向上心を問うことを目的とした質問を行いました。	●
建築・環境デザイン	建築・環境デザイン学科が対象とする領域は、身の周りの小さなスケールから、都市のような大きなスケールまで様々です。あるモノ単体だけではなく、複数の関係を空間的に思考することが重要で、それを伝えるためにスケッチや図面といった「想定表現」が必要になります。 その基本的な思考力・表現力を判断するために、実物のモチーフを「想定で立体構成」してデッサンする、という出題でした。「机や背景は描かないこと」としているのは、空間の奥行や広がりを伝えやすい背景に頼らずに、作者の純粋な立体構成力（空間表現力）を評価出来るからです。	下記のポイントを重視しています。 ・留学の意図や目標が明確であるか ・デザイン、アートに関連した基礎知識があるか ・基本的な表現技術が身についているか ・日本語による日常的なコミュニケーションが可能か ・学科、コースの制作、教育内容やカリキュラムを理解しているか	●
情報デザイン メディア芸術コース			
情報デザイン 情報デザインコース	手とモチーフ（3個のプラスチックボール）の鉛筆デッサンを通じて、下記の評価を行なった。 ・手とモチーフの形や質感についての観察力と表現力 ・手とモチーフを活用した構図の工夫：空間や重力についての観察力と表現力 ・基礎的な描画力	・日本語でのコミュニケーション能力があるか ・自己アピールなどプレゼンテーション力があるか ・プレゼンテーションにおいて、作品の制作の意図・過程・結果・価値を説明できるか ・入学後の具体的な学習・研究イメージがあるか ・情報デザインの分野の専門性を理解しているか	×
芸術	日本語の習熟度だけでなく、思考力をみます。論述の着眼点が出題内容に対して的確であるか、論旨は明確で説得力があるか、という点も判断基準となります。常識的にまとめあげた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待しています。	外国人留学生の存在は、他の学生にとっても大きな刺激になります。面接試験では、直接本人と会って日本語能力が適切であるか、芸術に関する最低限の知識をもっているか、などを判定します。	×
統合デザイン	・理解力=問題の把握・理解が正しいか ・観察力=日常の気付きからアイデアを導きだしているか ・発想力=イメージを具体化するアイデアが優れているか ・描写力=構図、形、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・視点=事象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか	・入学志望理由が明確であるか ・本学科の内容を理解しているか ・授業に必要な対話力・語学力はあるか ・授業への取り組みの意欲があるか	×
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース	舞踊： 身体を動かしながら日本語の口頭での指示を聞き取り、指示を基にして何らか実践することができているか。 演劇： 言語的な表現能力と感性、表現の幅を見た。また発想力や空間への把握能力も確認。 共通する主な出題の意図は以下。 ・受験生の、理解力、意欲、独創性、観察力、身体認識能力の確認。 ・グループワークにおいて、コミュニケーションにより創作を発展させる能力の確認。 ・日本語能力の確認。	主に自身の国を離れて日本に来て学ぶ動機と、大学の中でも多摩美を目指す意志を尋ねた。 実技試験の感想、日常的にどの様な事柄に興味があるかを尋ねた。 他、基礎過程の2年間に演劇と舞踊の両方を学ぶことに耐性があるかどうか、必修科目の中に日本語で実施される講義科目があることを承知しているかを確認した。	×
演劇舞踊デザイン 劇場美術デザインコース	「手」は全ての造形・創造を生み出す中心的役割を担っています。そして、演劇や舞踊では感情を表現する重要な手段でもあります。基礎的なデッサン力と共に、自由な発想や構図で、独創性や構成力を見ることがねらいです。情景を想定するということは、モチーフから物語を創造してドラマチックな世界観を創出することも出来ます。また、演劇舞踊デザイン学科の特色でもある、「光と空間を意識した構成」を表現してください。光の表現・捉え方（陰影の表現）は重要なポイントとなります。 用紙の縦横レイアウトは自由ですが、画面構図は大きな採点ポイントとなります。自由な構成や構図で独創性と構成力を見ることがねらいです。情景を想定するということは、実空間の形を捉えるだけでなく、ドラマチックな設定を思い浮かべ、心の中の情景を描くことも可能です。魅力ある個性的な創造力と描写力のバランスがとれているかも重要です。出題者の意図を読みとり、創造力で挑戦し採点者を感心させ感動させる解答を期待します	面接試験では持参した作品の説明に重点をおいています。作品は、デッサンや色彩構成などのベーシックなものから、個人作品として制作したものまで幅広いラインナップが望ましいです。 作品解説において、明快なコンセプトとそれを実現するための表現を的確に説明出来ているかを評価の基準としています。また、決められた時間内に説明ができるかも重要な要素です。 説明や質疑応答時に、日本語でスムーズに会話が出来るか、戯曲・台本を読めて議論できる語学力を有しているかも判断します。この学科への志望動機や目指したい方向性が明確かなども重要です。	●